

	保育の中での学び、気づき、今後の見通し	保護者・職員との対話の中で心がけたこと・反省等	園務分掌(クラス・グループ・係等)運営・役割の中で考えたこと
職員の思い・考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ “ノーコンタクトタイム”としての時間がなかなか取れずに 1 年間が過ぎてしまったが、職員が、自分たちで時間を作りあい、早めに仕事を進めて、余裕をもって保育の準備や書類等の提出ができた。 ・ 配慮の必要な子どもが増え、フリーの職員が手伝いに入り、目の届かないことが内容保育を進めることができた。職員の連携がいかに大切か実感した。 ・ 保育室の環境構成の見直しをもう少し丁寧に細やかに実施し、玩具の入れ替えなどをしていく必要を感じた。 ・ 大人の見守りの中、子どもがあそびを見つけ遊べるようになる様子や遊びの幅が広がってくるなど 1 年間の成長を感じた。丁寧にかかわることで少しずつできないできることに替えていく子どもたちの成長を感じることができた。 ・ 子どもの観察を深める中で子どもの発言から保育のアイデアが浮かんだり気づかされたりすることがたくさんあった。 ・ 子どものペースに寄り添い一つ一つのステップをクリアできるように守り、援助することに努力したが、子ども一人ひとりの気持ちと集団で動く時のバランスをとることが難しいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ・学年の隔てなく気づいたことを伝えあい、子どもたちのことを共有していくことを心がけた。 ・ 登降園時に門に一番近い部屋として、“園の入り口”を意識し、保護者への丁寧な対応に努力した。 ・ 保護者との対話の中で、保護者の伝えたいもしくは、聞きたい内奥が何なのか汲み取り、受け止めることの大切さを感じた。 ・ 保護者に対して、対話をする際には、簡潔にわかりやすく伝えることや、保護者が不安に思っている点に対してなるべく寄り添いながら必要な情報を話すように心がけた。 ・ 疑問に思ったことや、こうしてみたらどうだろうと思ったことをすぐに話せる関係性を築いて行けたと感じた。頭ごなしに否定をするのではなく、かかわりを大切に話を進めることで職員間の信頼関係につながったと感じる。 ・ 主自分で疑問に思ったことは、すぐに確認するように心がけ、保護者への対応についても些細な体調の変化をはじめ少しでも健康に過ごしていくよう伝えていくようにした。 ・ 園のルールや決まりとしてやってほしいことを保護者に向けて発信していったが、守られないことが続いた。園全体で密に伝えていく必要を実感した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員間で情報を共有しながら業務を進めることができたと感じる。 ・ 係の活動について、咲希の見通しを持って進めることができたと感じる ・ 日々の生活の中で、職員間の共通理解と連携が重要だと思う。それらに目を配り、早目に発信していくようにしたい。 ・ 係の仕事は、伝達を密にして進めていった。同じ係の職員との連携が大切だと感じた。 ・ グループの中で、あお組会議を深めることで、年長児の意識を高めることができたのではないかと感じた。 ・ 環境認識の中で、収集台の活用が思ったようにできていないと感じた。他グループの収集台がよく使えており、分かりやすいと感じたので工夫していくたい。 ・ 年長児担任ということで、グループ担当から外してもらうことでクラス運営に専念できた。先の見通しをもって 1 年間を過ごすことができたと思う。1 年間、周囲の職員に支えられて過ごすことができ、次年度以降、自分も支えられるように気づきを大切にしたい。
まとめ(次年度への展望)	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの年齢に関わる中で、職員一人ひとりが目の前にいる子どもたちへの保育に対し、真摯に対峙し、子どもに併せて対応し、見守りを進めていると感じた。自ら気付いた子どもの変化を保育に活かそうとする姿勢が見られていると感じる。 ○ 配慮が必要な子どもへの対応などクラス・グループの担当だけでは難しいと感じる場面が多くあり、フリーの職員がそのあたりをうまく連携を取りながら進めていくきっかけができるように感じる。次年度は、職員間の連携をより深めつつ子どもたち一人ひとりのために良い方法を模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの職員も保護者との対話についてはよく考えて実施しようと努力していると感じた。 ○ 駐車場利用のルールなど、当園独自のルールではあるが、守ってもらうことで園外の地域の方たちも含めた危機管理につながる約束を軽視する保護者に対し、他の保護者が「約束を守っていない。」と教えてくれるケースが増えた。意識ある保護者に感謝するとともに、保護者各位には繰り返し伝達していくことが必要と感じた。 ○ 対保護者、対職員、対子ども、それぞれの立場でどのように対応をすることがよいのかを職員一人ひとりがよく考えてから丁寧に対応することができるようになっていくと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主幹保育教諭や副主幹保育教諭が土曜日に必ず一人は出勤するようにした。 ○ 他の部屋や職員の協力体制等についてじっくりと見分し、振り返りができる職員が増えてきていると感じる、それぞれの感じた振り返りや協力体制が、より広がって職員間の連携等に良い影響が増えるとよいと感じる。